

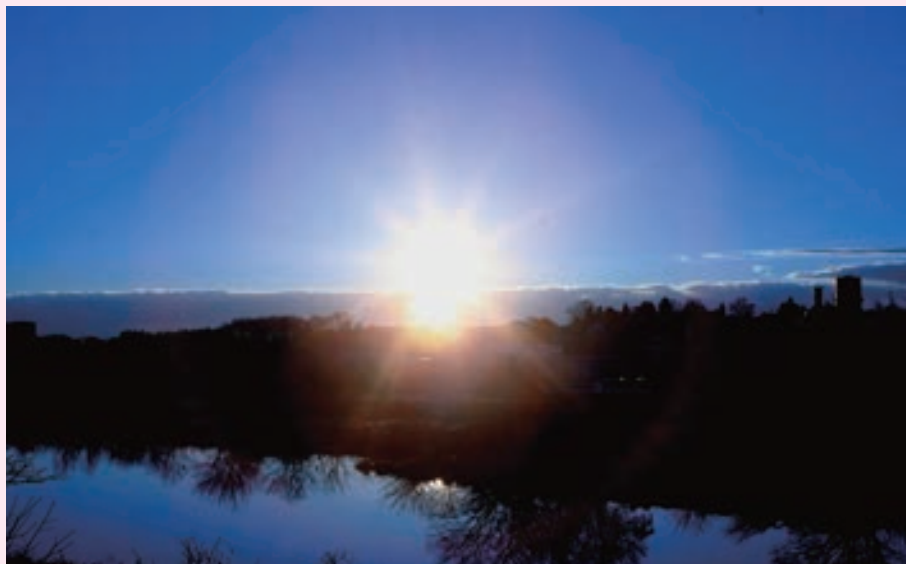


✚ 複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24

TEL : 042-491-4111 <http://www.fukujuji.org>

【発行責任者】 院長 後 藤 元



埼玉県狭山市、入間川に架かる広瀬橋より撮影した日の出。晴天に恵まれ、めでたい日の出を撮影する事ができました。

巻頭言 新しい「あかれんが」へ

院長 後 藤 元

あけましておめでとうございます。

巻頭の写真は、新年の朝、射し初めた光を写したものです。この生まれたばかりの光が、新しい年、2016年を明るく、そして暖かく照らしてくれることを願っております。

当院の外壁を形づくり、40年間にわたり、幾多の風雪から患者さんを、職員を守ってきた「あかれんが」もまた、この光に照らされながら、新しい年を迎えました。

今、皆様にお読みいただいているこの「複十字病院だより」も、当院のシンボルともいえるべき「あかれんが」を、そのタイトルにしています。

「複十字病院だより・あかれんが」は、1988年に、地域医療への貢献と病診連携を円滑にするため、また職員の相互理解を深めることを目的として創刊されました。題字の「あかれんが」の文字は、当時の木野智慧光院長の筆になるものです。以来、年4回、春、夏、秋、冬と発行を積み重ね、本号は、第110号になりました。

この間、登録医の先生方、患者のみなさん、そして当院の職員をはじめ、多くの方々に、お目通しを頂き、またさまざまなご意見をお寄せ頂きましたこと、大変にありがたく思います。

こうした中、我が国では高齢化が急速に進み、これ

に伴い、医療をめぐる環境は、大きく変わろうとしています。

地域医療における地域包括ケアシステムの導入、病床機能報告制度の運用開始、あるいは新専門医制度の設立に伴う臨床研修体制の抜本的な見直しなど、環境の激変は枚挙に暇がありません。当院としても、こうした医療制度の激変期にあたり、新たな病院体制の確立、整備は、必須の課題となっています。

その中でも、病院からの情報発信の改革は、最も重要な課題のひとつです。このため、当院におきましては、長年にわたり、当院の情報発信を担ってきた「あかれんが」を刷新し、新たな時代にふさわしい「複十字病院だより」として、よりタイムリーに、より充実した内容をお届けできる機関誌にしていきたいと考えています。

したがって、現在の形での「あかれんが」は、本号をもって終了をさせて頂き、次号からは、新たな形の「複十字病院だより」として、皆様にお届けさせて頂きたく存じます。

これまでの「あかれんが」につきましては、長年に亘り、皆様に暖かく迎えて頂いたことに感謝申し上げますとともに、次号からの新たな「あかれんが」につきましても、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年度 呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修 を始めました。

呼吸ケアリハビリセンター付部長 千住 秀明

平成27年10月5日から平成28年2月29日まで、結核研究所と複十字病院を会場に独立行政法人環境再生保全機構（以下機構）の委託を受け「呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修」を実施運営しています。

機構は、公害健康被害予防事業の一環として、予防事業対象地域において地方公共団体に委託して地域住民を対象に健康相談、健康診査及び機能訓練事業を行っています。近年、COPD患者が増加しており、地方公共団体でもCOPDへの対策が喫緊の課題となっていますが、呼吸リハビリテーションを指導する医療従事者（理学療法士、看護師等）が少なく、早急の育成等が求められています。

本研修の目的は、地方公共団体が行う事業の講師やコメディカルスタッフの確保を支援し、地域において呼吸リハビリテーションを指導する専門性の高い指導者（理学療法士、看護師等）を育成することです。本年度から平成29年度までの3年間の事業で1年15名、計45名のスタッフを養成する計画です。

本年度も約100名の応募者の中から15名（理学療法士14名、看護師1名）が選ばれ受講しています。研修内容を表に示します。

受講生の評価では、理論編では、10点満点中9.5点の高得点が得られています。臨床実習の感想では職場における入院中の患者に対する理学療法だけではなく、より広い視野と深い知識・技術を身につけ地域の中で活躍出来るよう成長していきたいなど、研修生の今後の活動に夢と希望を与える研修会となっています。



研修の様子

◆平成27年度呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修カリキュラム

日 付	演 題 名	講 師 名
10月10日（土）	保健行政の課題・長崎県の事例から	千住 秀明（理学療法士）
	慢性閉塞性肺疾患	吉田 直之（医師）
	間質性肺炎	内山 隆司（医師）
	呼吸リハビリテーション総論	吉田 直之（医師）
	呼吸リハビリテーションに必要な評価	千住 秀明（理学療法士）
10月11日（日）	結核後遺症とその他の呼吸不全	佐々木 結花（医師）
	身体所見の取り方	佐々木 結花（医師）
	呼吸理学療法	千住 秀明（理学療法士）
	呼吸器疾患の看護の役割	山中 明美（看護師）
	呼吸リハビリテーションと地域連携	髻谷 満（長崎大学）
10月12日（月・祝）	正しい吸入療法の実際	望月 譲（薬剤師）
	訪問看護	山川 裕見子（看護師）
	訪問理学療法	中田 隆文（須藤内科クリニック）
	呼吸リハビリテーションと作業療法	岩井 晶子（草加内科呼吸ケアクリニック）
	呼吸リハビリテーションの地域／急性増悪から在宅医療／シームレスなケアを目指して	山川 裕見子（訪問看護）／富田 秀樹（ソーシャルワーカー）中田 隆文（理学療法士）／岩井 晶子（作業療法士）／行政

◆呼吸リハビリテーション指導実習

日 付	講 師 名
①10月26日（月）～10月31日（土） ②11月16日（月）～11月21日（土） ③11月30日（月）～12月 5日（土） ④12月14日（月）～12月19日（土）	千住 秀明（理学療法士）他

呼吸リハビリ
勉強会！

東京夢塾についてのご紹介

リハビリテーション科 主任 山根 主信

東京夢塾の発足

2015年4月より複十字病院に千住秀明部長が赴任されました。千住部長は前勤務地の長崎大学医学部保健学科において、教育・研究・臨床活動を通じて呼吸リハビリテーションの普及と啓発活動を長年行ってこられてきました。しかし、「呼吸リハビリの存在を知らない患者さん」、「呼吸リハビリをうけたくても受けられない患者さん」がまだ沢山いらっしゃるという現状があります。そこで、呼吸リハビリを必要とする患者さんの住まわっている地域の病院や施設で、いつでも呼吸リハビリがうけられるような環境を作っていくことを目的として「東京夢塾」という組織を作りました。ちなみに「夢塾」とは長崎大学で千住部長が作られた千住研究室の別名で、「東京版の夢塾」ということで「東京夢塾」という名称になりました。



東京夢塾決起会（2015年7月）

東京夢塾の活動

主に関東の病院や施設の医療従事者を対象として、呼吸リハビリについて基礎から学ぶための勉強会を月に1回の頻度で開催しています。第1回目は2015年8月29日に結核研究所の講堂をお借りして開催し、64名の方に参加していただきました。次の9月の勉強会には73名、10月は78名の方に参加をしていただいております。この勉強会は呼吸リハビリに興味がある方、知識や技術を深めていきたい方、どなたでもご参加は可能です。ホームページ（<http://yumejyuku.wix.com/tokyo>）も開設しておりますので、興味がある方はそちらもご覧になってみて下さい。



勉強会の様子

また、関東の病院や施設で働いている理学療法士や作業療法士で東京夢塾の目的や活動に賛同していただいた仲間約30名で、月に1回複十字病院のリハビリ室を使用して呼吸リハビリや研究法についての勉強会を開催しています。私もこの「東京夢塾」という活動を通じて呼吸リハビリについて改めて学び、勉強会に参加者して下さる方や患者さんと一緒に成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

次回以降の開催予定

2016年1月30日（土） 15時～18時 場所：結核研究所講堂（予定）

◆◆呼吸器センター第3回市民公開講座「肺MAC症とは何？」 2015年10月17日（土）◆◆



臨床研究アドバイザー 倉島 篤行

呼吸器センターの市民公開講座を10月17日に清瀬アミューホールで開催し、160名あまりの市民の方・患者さんが集まりました。「肺MAC症とは何か」（呼吸器内科医長 森本耕三）、「治療はどうするのか?」（診療主幹 佐々木結花）、「手術はどのようにするのか?」（呼吸器外科 平松美也子）という話の後、実際に手術を受けた体験談をいただきました。質疑応答では多くの市民の方と当院医師の活発なやりとりがありました。「わかりやすい解説で良かった」「来年もぜひ開いてほしい」など声が寄せられました。

◆◆乳腺センター第11回市民公開講座「明日の私のために」 2015年11月14日（土）◆◆



乳腺センター長 武田 泰隆

乳腺センター市民公開講座を11月14日に清瀬アミューホールで開催し、90名あまりの市民の方・患者さんが集まりました。本年はハリウッド女優アンジェリーナ・ジョリーさんで話題になった「遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）」をテーマに、3人の演者（乳腺センター医長 生魚史子、クラヴィスアルクス代表 太宰牧子さん、昭和大学遺伝カウンセラー 和泉美希子さん）による講演があり、盛況のうちに終了いたしました。

きよせ吸入療法研究会のご紹介

情報システム部長、呼吸器センター呼吸器内科 早乙女 幹朗

「きよせ吸入療法研究会」は、2012年2月に発足した地域医薬連携の会です。「あかれんが」では2012年秋に第1回、第2回までの状況をご紹介させていただきましたが、研究会はその後順調に回を重ね、2015年11月12日には第12回の学術講演会を開くことが出来ました。会のスタイルは当初から大きく変わってはおらず、清瀬近隣地区の薬局の薬剤師や医師などの医療関係者を対象に、呼吸器疾患に関する講演を聞いていただいた後に、各メーカーの担当者のブースで吸入実技指導を受けていただくという形式です。第12回は呼吸リハビリテーションについての講演を複十字病院呼吸ケアリハビリセンターの千住部長が行い、そのあとには喘息・COPDの吸入薬発売全社の担当者による実技指導を133名の参加者の皆さんに受けていただいて、お陰様でなかなかの盛会となりました。

気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの治療には吸入薬が使われることが多くなってきていますが、吸入器具にはたくさんの種類があり、それぞれの使い方が異なっています。ところが、吸入療法の実態を調べてみると、患者さんによっては薬剤の説明書を読んだだけでは正しい吸入法が理解できず、肝心の薬剤がきちんと肺の中まで到達できずに薬効が発揮されていない、というケースも結構あることがわかってきました。つまり、正しく吸入療法を行うためには、処方医や調剤薬局の薬剤師による正しい吸入指導が患者さんにとってきわめて重要、ということなのです。きよせ吸入療法研究会は、医薬連携を通じて吸入指導のレベルアップを図るために工藤前院長の肝煎りではじまったもので、現在では清瀬・東久留米・東村山・西東京・小平の各市の薬剤師会を合わせた西武薬剤師会に共催を、5市の医師会に後援をいただいています。参加者は5市の薬剤師・医師の他、口コミで埼玉県や他県の医療機関の方も集まってきてくださっています。吸入実技指導については、練習用の器具などを各メーカーから提供してもらって実地に参加者が体験できることと、日頃疑問に思っていることや分からないことをメーカーの担当者に直接質問できることが従来のこのような会には無かった特長で、これがリピーターを増やしている要因の一つのようです。また、吸入薬発売全社の吸入指導用パンフレット類をすべて1冊のファイルにまとめて参加者に配布することで、現場での吸入指導をよりスムーズに行えるよう配慮しています。さらに、研究会で立ち上げたワーキンググループ活動では、医師から調剤薬局薬剤師への吸入指導依頼票、薬剤師から医師への吸入評価表が作成され、現在は各メーカーの学術担当にも協力してもらいながら、吸入指導の統一マニュアル作りが進められています。

研究会は、地域の医師と薬剤師の間に「顔の見える病薬連携」をつくりながら、吸入療法の普及とレベルアップを目指す方向でこれからも進んでいきます。第13回については、本年3月開催を目指して準備中です。これからも、吸入療法に関心をお持ちの医療従事者の方々のますますのご参加を心よりお待ちしております。



複十字病院主催 2016年1月以降の市民公開講座

2016年1月

●【糖尿病・生活習慣病センター主催市民公開講座】 「糖尿病は怖くないーでもー 血管から見える健康」

座長：糖尿病・生活習慣病センター長 及川 真一

日時：2016年1月30日（土）14：00～

場所：ころぼっくるセンター ホール

（住所：清瀬市中清戸3-235-5）

動脈硬化の問題と、そこから来る臓器の異常・
認知症などを取り上げる予定です。食事やアル
コールなど身近な原因を取り上げ、わかりやす
く説明します。

2016年3月

●【呼吸ケアリハビリセンター主催市民公開講座】 「COPDという名の生活習慣病」

座長：呼吸ケアリハビリセンター長 吉田 直之

日時：2016年3月12日（土）14：00～

場所：アミューホール

（住所：清瀬市元町1-2-11）

●清瀬地区学術講演会（登録医会共催）

「花粉症」（仮題）

日時：2016年3月17日（木）19：00～（予定）

場所：結核研究所 講堂

秋も！

清瀬高校が前庭整備の ボランティアにきてくれました！

天候のよくない日も寒い日もありました。ありがとうございました！



呼称変更のお知らせ

当院では、来院の皆様を「患者さま」とお呼びしておりましたが、「(さま) という表現に違和感がある」「(さん) のほうが親しみがある」という意見がありましたので、院内全体で「患者さん」という表現に変更することにしました。

2015年10月1日より「〇〇さま」から「〇〇さん」へ呼称変更させていただきました。

親しみやすく、より良い治療、接遇を目指してまいりますので今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

* 掲示物やパンフレットにつきましては、随時変更対応とさせて頂いております。

晩秋院内コンサートを開催しました

2015年11月16日(月) 男声カルテット「ほろよいず」のコンサートがありました。見事なハーモニーが患者さんにあたかなひとときをくださいました。



2015年 自衛消防審査会

防災委員会 庶務課 課長代理 瀧口 竜太

本年も恒例となっております、清瀬自衛消防審査会に2015年9月11日参加致しました。

参加団体も多く、当院からは1号消火栓の部に混成隊・女子隊が参加し、結果として賞を逃してしまいましたが、参加隊は当日例年以上に気合いが入り、災害時さながらの素晴らしい演技を行い、我々指導者も圧倒され感動すら覚えました。

参加隊、また指導から裏方までご協力いただいた中央監視室の方々本当にお疲れ様でした。

今後も当院職員一同、より一層防災意識に努めていきたいと思えます。

(女子隊)

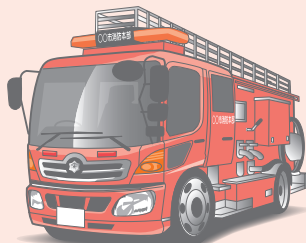
須々木 ひとみ 臨床検査科

永井 舞 薬剤科

(混成隊)

國分 直人 中央監視室

佐藤 明美 2C病棟



複十字病院の理念

複十字病院は、質の高い温かな医療と看護を提供するとともに、医療連携を推進し地域社会が求める包括的な医療の実現を目指します。

● 病院運営の基本方針 ●

1. 呼吸器疾患、がん、生活習慣病を柱とした質の高い温かな医療と看護の充実を図る。
2. 国の高度結核専門施設、東京都（肺がん、大腸がん、乳がん）診療連携協力病院としての役割をはたす。
3. 複十字病院登録医会を中心に医療連携を推進し、在宅医療、救急医療、災害時対応など地域医療に貢献する。
4. 健診事業を発展させ、疾患の早期発見と予防医療を推進する。
5. 複十字病院『患者権利章典』を尊重する。

複十字病院『患者権利章典』

患者のみなさまは、人間としての尊厳のもとに医療を受ける権利があります。医療は患者と病院がお互いの信頼関係のなかで共につくり上げるものであり、みなさまに主体的に参加していただくことが必要です。病院と病院職員は「患者中心の医療」の理念のもとに、複十字病院『患者権利章典』を守り、みなさまの医療に対する主体的な参加を支援します。

● 患者さんの権利 ●

1. 人格を尊重され、思いやりのある最新で最良の医療を受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療方針・今後の見込みについて知る権利があります。
3. 十分な説明を受けた後、ご自身の選択に基づく治療を受け、また、法の許す範囲で拒否する権利があります。
4. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
5. プライバシーを保護される権利があります。
6. ご自身の診療記録、治療費の内容について開示を求める権利があります。
7. 退院後のことについて指導を受ける権利があります。

● 患者さんにご協力いただくこと（責任）●

1. ご自身のこれまでの病歴や現在の病状について担当医に詳しくお話し下さい。
2. 病気を治すために、ご自身も必要な努力をして下さい。
3. 治療を継続して受けられない場合は、担当医師にご相談下さい。
4. ご自身や他の方の診療、入院生活に支障を与えないようにして下さい。

人 事 異 動

2015年9月15日～2015年12月14日まで

【採用】

（看護師）	丸 山 裕 香	10/1
（看護師）	佐 藤 祐 加	10/1
（看護師）	長 野 泉	11/15

【退職】

（事務員）	飯 岡 美弥子	9/30
（労務員）	須賀川 真理子	9/30
（看護師）	氏 家 奈 美	10/31
（看護師）	君 塚 舞 子	11/14
（労務員）	小 峯 博 明	11/14

行 事 予 定

1. 院長年頭挨拶

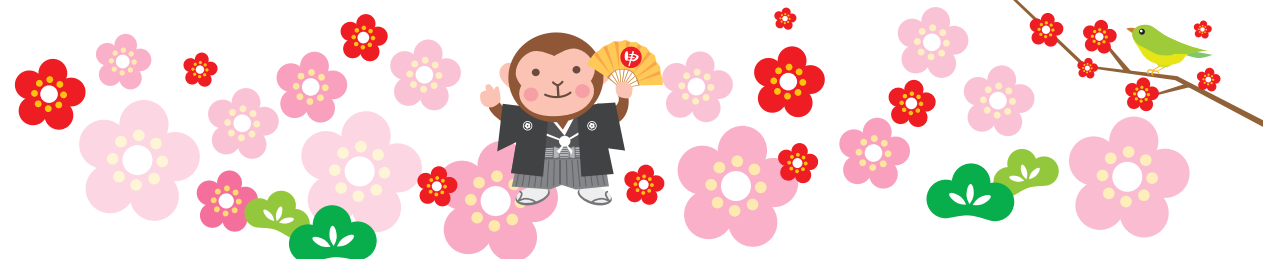
日 時▶2016年1月4日（月）12：00
場 所▶複十字病院会議棟（予定）

2. 職員健康診断

日 時▶2016年1月12日・13日・14日（予定）
場 所▶結核研究所講堂

年末年始休診

2015年12月30日（水）～2016年1月3日（日）
＊診療科ごとに異なる場合があるため、予約センターにて事前にご確認ください。



編 集 後 記

電子機器に弱い私にはついていくのがやっとの状態です。姪が、さらっとLINEのグループ設定をしてくれました。スマートフォンを使いこなせない母を侮っていましたが、最近は2台を使いこなしています。電子機器に使われぬよう、利用していきたいと思います。

「あかれんが」の広報誌も、変革の時期を迎えています。みなさんに親しまれる広報誌にしたいと思っています。ご期待下さい。（B）